

2026年度	科目名	カリキュラム研究特論
	英語名	Advanced Seminar on Curriculum Theory
	科目属性	専門科目A群
	担当教員	古壕 典洋
	単位数	2単位(SC 0 単位)

【授業の目的・ねらい】

【授業概要】

1. 教師や学校教職員集団による個々の生徒および生徒集団の人格と能力の統一的発達の見通しとしてのカリキュラム(教育課程)とその編成に関して、今日までの教育研究上の理論的到達点や見解の相異点などを全体として把握し、自分なりの見識も持てるようにする。
2. 市民・国民・地球人として必要な教養水準の確保と教育内容・カリキュラムに関する国民的合意の確立の重要性、そのための基準的文書という性格を担う学習指導要領のあり方をともに探究する。
3. 人間らしい生存と生活の確保という福祉的観点の強化などを図りつつ21世紀にふさわしい学校 を創造するために、学校とカリキュラム(教育課程)の改革方向をともに探究し合う。

【授業の到達目標】

1. カリキュラム(教育課程)改革の今日までの変遷や論議を踏まえつつ、その編成原理、全体構造——各教科や教科外諸活動(特別活動)など各領域それぞれの固有の役割と相互関連——などに関して考察を深める。
2. 学校のあり方を考える「3つの基調」を提起したうえで、学校改革の基本方向をカリキュラム(教育課程)論と学校論レベルで検討する。
3. カリキュラムに関する基準的文書としての学習指導要領と内外の各種学力調査等の検討を通じて、子ども・青年に確保されるべき学力の内実を考える。

【授業計画】

【第1の柱】カリキュラム(教育課程)の原理と構造に関する考察(第1回～第3回)

- ① 学校による子どもの能力と人格の発達見通しとしてのカリキュラム(教育課程)
- ② カリキュラムの構造の把握。各教科の編成として誕生し、次第に教科以外の諸活動が取り込まれるようになった経緯をふまえた二領域論(原理論の側面)の把握と、現実には、子どもの「必要」や「社会の要求」などを根拠として、原理論とは異なる様相を示すカリキュラムの実態(実態論の側面)の把握。
- ③ カリキュラムにおける分化と総合

【第2の柱】カリキュラム(教育課程)と学力に関する考察(第4回～第11回)

- ① 学校週5日制完全実施で学力は果たして低下したのか?—5日制の潜在的本来の可能性とカリキュ

ラムー

- ②「学力低下」論議と学習指導要領
- ③「学力」概念の再吟味

【第3の柱】21世紀の学校、その基本的方向(第12回～第15回)

- ① 学校をこう変える—学校の教育機能と福祉機能、両機能の結合を学校論・教育課程論の問題として考えたらどうなるか。特に、福祉的機能をどう強化するか。—
- ② 学校のあり方を考える3つの基調
 - (1) 生存権的基本権の文化的側面の充足の任を負う学校
 - (2) 地域住民との共生・連帯を創出・発展させる学校
 - (3) 生涯学習の基底を培う任を負う学校

【評価方法】

「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価いたします。

【教科書】

- 1. 西岡加名恵編『教育課程』(教職教養講座 第4巻)協同出版、2017 ISBN 978-4319003259

【参考図書】

- 1. 古壕典洋・手島純(編)『ICT教育の現実と未来:学校現場での実践と課題』彩流社、2024

